

## 視 点 住職 堤 俊翁

縁起ということばがある。因縁生起の略語であり、わかりやすくいえばすべての現象は原因があって、これを助ける縁（条件）が作用しておこるものということであろう。

今日の日本の状況を見るに、色々な面で毒が吹き出してきたのではないかと思わせる程である。政治腐敗ばかり、看護師殺人事件ばかり、外務省、農水省等々事件に事欠かない状態である。中国領事館事件、何か日本という国全体が得体の知れない病魔におかされているような気がしてくる。

なぜこうなったのか、縁は色々とりだされるだろうが因は何なのか？原因を突き止めねば直しようがない。

上智大学の渡部昇一名誉教授は、「日本国の柱であるべき憲法が戦後米軍占領下で制定されたものであり、独立後も日本人の手によって、新しく制定する手続がとられていないことを挙げている。今からでも国会で占領下の法律は無効であるという決議をすべきである。」と主張している。

何か日本人は自尊心を失いかけているような気がする。自分達の国は自分達で作るという思いが一人ひとりになれば、他国から内政干渉などされずに済むのではないだろうか。美しい国土に育ち親和的な日本人の気質を世界の平和の模範とするべく堂々と世界の人々とともに歩いていけるようになったら素晴らしいのではないだろうか？

自分で生きようとしなないものを  
生かすことはだれにもできない。

## 無縁供養を 寺内 大吉

お腹が空いた。早く食べたいこれは体内のアドレナリンという物質が要求するんだそうである。でも空腹を満たすだけでは味気ない。生活環境が豊かになれば、なおさらである。もっとおいしいものを食べたい。では、どんなおいしいものをこれはエンドルフィンという脳内物質が作用するのだという。つまり御馳走は口ではなく、頭脳が味わっていることになる。荒々しい性的欲求を清らかな恋愛感情へ高めるのも、このエンドルフィンの作用である。科学者によっては「体内媚薬」と呼ぶ人もある。

「媚薬」とキメつけると誤解され易い。ことに宗教心の場合、「宗教はアヘンなり」の論拠ともなり兼ねない。エンドルフィンを、すべてを浄化してゆく人間の本能と考えるべきであろう。そして、この浄化本能こそ人間の最も貴い営みを支えてくれる。お盆やお施餓鬼は、餓鬼地獄におちた死者を招いて「施す」仏教行事である。そこで誤解してならないのは、地獄で苦しむ者がおたくの身内のホトケではないということである。すくなくとも浄土教では、念仏を信じた者は一人の例外もなく阿弥陀仏のお浄土へ往生。できる。往生とはお浄土で生まれかわって仏としての働きをするのである。つまりお盆には、おたくのホトケさまが、地獄で苦しむ無縁サンを大勢連れて帰ってくるのである。だからお盆には必ず「無縁供養」を忘れないで欲しい。—作家—

## お盆の法要の御案内

今年もお盆の法要を下記のように勤めます。どうぞご参詣下さい。

- 1.日 時 8月13.14.15日午後5時より
- 2.場 所 本堂にて

## 一皿精進

Vegetarian Cooking

浄土宗『かるな』より抜粋

## めん 稲 荷

### 作り方

### 材 料

- うどん、、、、 1玉
- そば、、、、 1玉
- 茶そば、、、、 1玉
- あぶらあげ、、、 6枚
- トマト、、、、 2個
- なす、、、、 2個
- 三つ葉、、、、 適量

1. あぶらあげは油抜きをし、しょうゆ、みりん、砂糖、塩、だし汁で煮る。
2. うどん、そば、茶そばは、酢飯を作る要領で、酢、砂糖、塩で味を整える。
3. なすは皮をむき、サイの目に切ってゆでる。トマトは生のままサイの目に切る。
4. うどん、そば、茶そばそれぞれに3を混ぜ合わせて2、にきちっと詰め、両端を三つ葉で結ぶ。
5. 4.を中心で斜に切りバランスよく盛り付ける。



# 仏事のQ&A

Q 今年、祖母を亡くしました。祖母がかわいがってくれた子どもが、喪中に七五三を迎えます。祝つてやりたいのですが、喪中に祝い事をしてよいのでしょうか。

A 明治の初期に「服忌令」というものが制定されました。それによると、父母が死亡した場合は忌日は五十日、服日は十三カ月というように、親等によって細かく忌と服が定められていたましたが、最近の慣習から考えて、一般的には、四十九日（満中陰）の忌日までを忌中といい、一周忌までの一年間を喪中と呼んでいます。「忌」とは昔、近親者が死亡した場合、死者の穢れについている期間をさし、喪服を着て家に閉じこもり、身を慎んでいました。もっともこの「穢れ」という考え方は、神道のもので、浄土宗ではそのとはとらず、西方極楽への往生の門出ととっています。「喪」は、喪服を着て故人の冥福を念じ、生活を慎んでいる期間のことを意味しています。これは今日の習慣として定着しています。

自宅に遺骨を祀っている間、また忌中の間は霊前にお参りしてくださるお客さまもたくさんみえますので、留守にしないで故人の冥福を念じながら過ごすよう心がけましょう。また、とくに結婚式などのお祝い事への出席は、遠慮すべきでしょう。

喪中期間の祝い事についても、なるべく慎むようにすることが望ましいと思いますが、ご質問の、七五三のお祝など、お子さまにとつては一生に一度で、おばあちゃんも待ち望んでおられたことなので、お祝いしてあげることには、かえって故人が喜びになることでしょう。普通にお祝いをしただけで、一向に差しつかえないと思います。

また、新年を迎える時には、正月の飾りつけや年頭の挨拶回り、年賀状の交換などは避けるべきで、だいたい十二月上旬には賀状欠礼の挨拶状を郵送します。

挨拶状の中には、故人の一生の履歴と生前の厚情のお礼を合わせながらの通知を書き込んだものもあります。

初詣や新年会への出席などは控えるべきですが、仕事などの関係で、どうしても出席しなければならぬ場合には、極力スピーチや宴会歌などを控え、服装も目立たぬようにすることがかんじんでしょう。

浄土宗なんでも相談室より

## 特別連載 念佛者の心 (八)

奈良県香芝市 正福寺住職 別府 空由上人

### 発願歸敬偈

道俗時衆等 各發無上心 生死甚難厭 佛法吹復欣  
共發金剛志 橫超斷四流 願入弥陀界 歸依合掌禮  
世尊我一心 歸命盡十方 法性眞如海 報化等諸佛  
一一菩薩身 普願等無量 莊嚴及變化 十地三賢海  
時劫滿未滿 智行圓未圓 正使盡未盡 習氣亡未亡  
功用無功用 證智未證智 妙覺及等覺 正受金剛心  
相應一念後 果德涅槃者 我等咸歸命 三佛菩薩尊  
無碍神通力 冥加願囉受 我等咸歸命 三乘等賢聖  
學佛大悲心 長時無退者 請願遙加備 念見見諸佛  
我等愚痴心 曠劫來流轉 今逢釋迦佛 末法之遺跡  
彌陀本誓願 極樂之要門 定散等回向 速證無生身  
我依菩薩藏 頓教一乘海 說偈歸三寶 與佛心相應  
十方恆沙佛 六通照知我 今乘二尊教 廣開淨土門  
願以此功德 平等施一切 同發菩提心 往生安樂國

### 道俗の衆等、各無上心を發す

時、生死は甚厭難く佛法も復欣難し、共に金剛の志を發して横に四流を超越せん。願くは弥陀界に入んと歸依し合掌し禮し奉る、世尊よ、我一心に歸命し盡さん。十方の法性・眞如海報(仏化)仏等の諸佛・一一の菩薩身・眷屬等は無量、莊嚴と變化・十地と三賢海・時劫の満と未滿・智行の圓と未圓・正使の盡と未盡・習氣の仁と未亡・功用と無功用・證智と未證智・妙覺及び等覺・金剛心を正受し、一念に相應しての後、涅槃を果徳者。我等咸、三佛の菩提尊に歸命し、願くは無碍神通力と冥加を攝受し、我等咸三乘等の賢聖に歸命し、佛の大悲心を學び長時に退せざる者、請ひ願くば遙かに加備せられ、念に諸佛に見え奉らんと、我等愚痴の身は曠劫來流轉すれども、今釋迦佛の末法への遺跡たる弥陀本誓の願に逢えり、極樂の要門は定

散等しく回向すれば速に無生の身を證せらる。我菩薩藏・頓教・一乘海に依つて歸三寶の偈を説く、與佛心に相應す、十方恆沙の佛よ六通を以我を照知し給へ、今二尊の教に乗じて廣く浄土の門を開す願くは此の功徳を以て平等に一切に施し同じく菩提心を發し安樂國に往生せん。

大意を採ると、仏菩薩眷屬等に深く歸依して二辺を離るれば、涅槃を得ることが出来る。佛法を學べば、深く歸依すれば加備せられ、釈迦の末法へのたよりと弥陀の慈悲は「ひとすくいの心」と受け止めるべきであり、それ故に、すべての人々と「もろ共に」極樂浄土へ往生する願心をとということである。

### 蜘蛛の巣 網の目

子供の頃、軒の下で蜘蛛が巣を張っているのを見、又翌日虫が蜘蛛の糸にくるまれて死んでいるのを見た。川で魚を獲るのに夕方網を置いて翌日の朝、魚が掛つていたのを思い出す。蜘蛛の巣(糸)も網の目(糸)も縦横無尽にと言えるであろう。虫も魚も動き跳く程に身動き出来なくなつてゆく、人間がこの世に生まれて来たということとは、この虫と魚の如きであろう。自分で判らず目に見えない縁の糸に絡まれて苦しんでいるのではなからうか。複雑に絡み合う糸を見窮めない限り自由にはなれない。唯識とは、この糸を見窮めることを意味するのではなからうか、網の目・単の形を知るといふこと、糸の絡みを知るといふことに

依つてのみ自由の道は開かれるのではなからうか。業の緊縛ということが自認できるのであるまいか、虫や魚が私であれば見つめる子供の目に仏の目を、あはれ、かわいそうにと思ふ子供の気持に仏の心を感じることは出来ないのだから、虫や魚を人生の幸せに置き換えて逃られることを不幸と見るならば、糸が切れて逃げられたから私は不幸と言はば、幸せに生きる為には糸を切らさないこと、穴を開けぬこと、糸の連なりに先祖を見立ると、無縁が出れば穴が増えてゆく、さすれば不幸が続く、御先祖様の救いはお坊さんに経を唱えていたただかねばなりません。苦しみが止まなければ供養が足りませんと、全てを失つて気が狂う人がもし出たとしたら、法の理解の形に問題があるのではなからうか。

糸を網にするのは逃さないためであるが、逆には、もらさない為でもある。この逃さない、もらさないの心を大切に網の目をういなくしてはいけなかつた。巢は空間に、網は水中に蜘蛛と漁師は空気(風)と水(流れ)を計つて事を成す、ここから自身の糧を得るのであるが空気が水は殺すも活すもただただ見ているのみで何も語らない、何も防げない。この何も語らず防げないところから全てを許す心を学ぶべきではないかと思ふ。全てを許す心ともらさない心と逃さない心こそ、仏が全てを救い取らずにはおられない大悲心ではなからうか。

つづく